

# つくし会通信

発行：一般社団法人高齢期サポートつくし会 第3号 2015年12月

## つくし会からのメッセージ

つくし会では、その活動の中で成年後見や相続・遺言などに関する書籍や研修資料を見る機会が多くあります。また、新聞や雑誌にはこれらに関する様々な事例が取り上げられています。そして、高齢期にある方々に対応されている皆さんの日々の想いがあります。それらのほんの一部ではありますが、一つの紙面に集約し、皆さんにお届けします。業務のちょっとしたヒントに、そしてひと時の息抜きになれば幸いです。

## 「2025年問題」で思うこと

「2025年問題」という言葉は、ネット資料で見ると誰が言い出したのか定かではなく、また、定義的な資料も見当たりませんが、概ね次のような内容で語られていると思います。

「団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）に達する2025年には4人に一人、2,200万人が75歳以上という超高齢社会が到来し、医療、介護、福祉への需要が高まり、社会保障財政のバランスが崩れることが懸念される。」

こうした問題意識の端緒になっていると思われる資料に「今後の高齢化への展望～2025年の超高齢社会像～<sup>注</sup>」（平成18年厚生労働省）があります。高齢者人口、認知症高齢者数、高齢者世帯数などの現状と将来推計データを、客観的に、そしてA5判5枚にコンパクトに取りまとめたものです。このデータを基にしたどのような指摘も恐らくは正しく、将来の税や保険料等の負担増を嫌でも意識せざるを得ない意見が多いですが、10年後の社会の様子を私達の業務との関係で考えると、大病のサインが事前に体のどこかに現れるように、既に身の周りに具体的に現れていると思います。その重大なサインの一つとして、私は、独居×認知症高齢者の問題を挙げたいと思います。目新しくもない意見で、敢えて言うほどのものでもありませんが、上記平成18年厚生省資料においても、「認知症高齢者の見通し」「高齢者の世帯の見通し」がその中核的なデータとして取り扱われており、次のような予測が行われています。（注）ネットで入手出来ます。

①認知症高齢者（自立度Ⅱ以上）は、2025年には2002年比で2.2倍になる。

②65歳以上の単独世帯は、2025年には2005年比で1.8倍になる。

介護や福祉の分野でお仕事をされている皆さんは、困難事例の多くが独居×認知症高齢者であることを、既に日常の業務を通じて感じ取られていることと思います。そして、これに、生活保護問題、住居問題、家族関係などが絡んで複雑化し、解決困難の度合いは更に高まるというのが定型のパターンではないでしょうか。つくし会はスタートして間もなく、それほど多くの事例を見聞きしている訳ではありませんが、困難事例のほとんどは、やはり独居×認知症高齢者であり、どうしてこんな事態に至ったのか理解不能な事例を目の当たりにすると、2025年まであと10年なんて呑気な事は言っていられない心境になります。まずは、個々の解決事例をその場限りのもので終わらせず、ノウハウを社会的に共有し、積み重ねて行く事が大事だと思います。それが、その後の困難事例の効果的な解決に生きてくると思います。最近参加した研修会で学んだ事ですが、地域ケア会議がそういった対応の「好事例」を集積し、行政へ提言の役割を果たしつつあるとのことで、個々事例の経験を積み重ねることは大いに結構と思いますが、生々しい困難事例を具体的に解決に導く組織とはちょっと違うと思うのです。2025年に向け、独居×認知症高齢者問題の急増に対応出来る新たな仕組みが必要だと思います。・・・苦勞されている地域包括やケアマネジャーの皆さんの駆け込み寺、というイメージでもあるんですが。



## 今年、つくし会はこんな活動にも取り組みました

つくし会がスタートして9か月、事業所訪問を中心に活動して参りましたが、ここのところ高齢者、障がい者の皆様に対する後見支援や生活支援のお話を頂くようになりました。つくし会がお役に立てる場面が少しずつ増えてきたと感じております。そして、幾つかの事業所様からは、セミナー等の講師役を承りました。後見、相続、遺言等の啓発活動ということですが、私どもの勉強としての意味合いも大きく、来年は、更に多くの皆様から声をかけて頂ければ幸いです。

○平成27年6月1日（画像なし）

手稲区介護予防センター稲穂・金山・星置様  
すこやか倶楽部 講師 富舛代表理事

○平成27年6月5日（画像なし）

手稲区 グループホーム みやこ様  
職員会議 講師 富舛代表理事

○平成27年7月6日（画像なし）

手稲区 グループホーム 自由の大地様  
運営推進会議 講師 富舛代表理事

○平成27年9月10日

手稲区 特別養護老人ホーム札幌市稲寿園様  
講師 富舛代表理事

○平成27年10月8日

豊平区 ポピーの会様  
講師 松岡理事



○平成27年10月28日

西区 グループホーム  
オークビレッジ発寒様  
運営推進会議  
講師 富舛代表理事



○平成27年10月31日

手稲区 曙第一ふれあいクラブ様  
講師 富舛代表理事



○平成27年10月31日

豊平区  
光陽会みどりの丘様  
講師 松岡理事



**（投稿）今、私は・ ・ ・ 札幌市手稲区介護予防センター稲穂・金山・星置**

**相談員 長田 旭輝**

先日、ある地域の方とお会いした時「認知症って言葉、まるで流行語みたいに良く聞くようになった」と言われていました。それだけ身近な存在になってきたという事でしょうか？

10年後には高齢者の5人に1人が認知症になると言われています。また、64歳未満の若年性認知症も知られてきています。今後は、私達の日常生活の中でも、年齢や立場に関係なく、認知症の方と接する機会が増えてくることが予想されます。

先日、小学生を対象にした認知症の講座を行う機会がありました。認知症について学習した後に、地域の通所サービス事業所で、高齢者の方と交流しました。緊張していた小学生に1人の認知症の方が、逆に声をかけてくれ、和やかな交流となりました。終了後、その小学生に感想を聞くと「声をかけてくれた方が、認知症の人か分からなかった、でも楽しかった。」という感想が返ってきました。認知症と向き合うことは、簡単なことではありません。ただ、認知症が、どういふものかを知り、正しい認識を持つことで、普段の日常生活の中での、何気なく関わることにつながると思う出来事でした。

一般社団法人 高齢期サポートつくし会	<b>検 索</b>	(文責) 代表理事 富 舛 和 夫
住所：〒006-0851 札幌市手稲区星置1条1丁目9番8号		
TEL：011-215-6972 FAX：011-215-6973		
E-mail：k-tmms@f7.dion.ne.jp つくし会通信は隔月発行です。		

お願い：今後この「つくし会通信」の送付をご希望されない場合は、恐縮ですが TEL、FAX、E-mailいずれの方法でも結構ですのでご連絡ください。